

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

気象庁では津波による災害の発生が予想される場合に、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。例:3mから5mの間の津波が予想されたら「予想される津波の高さは5m」と発表します。

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
【特別警報】 大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返しおそってくるので津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安全と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！	標高の低いところでは津波がおそい、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm<高さ≤1m)	表記しない	海の中にいる人は、ただちに海から上がり、海岸から離れて下さい。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では、人は速い流れに巻き込まれる。小型船が転覆する。

- 津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
- マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報を発表します。
- 地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配が無い場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。
- 大津波警報は特別警報に位置づけられます。**命を守るために情報の収集に努めてください。**

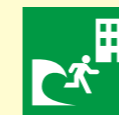
津波や津波避難に関するマークを覚えましょう

総務省消防庁では、津波や津波避難に関する統一的な表示マークを3種類定めています。



津波避難場所

津波に対して安全な避難場所・高台を表しています。



津波避難ビル

津波発生時に、周りに高台がない場合、津波から避難できる高さ・耐震性があるビルを表しています。避難場所として一時的に避難できる施設で、聖籠町と協定を結ぶ事業所等があります。

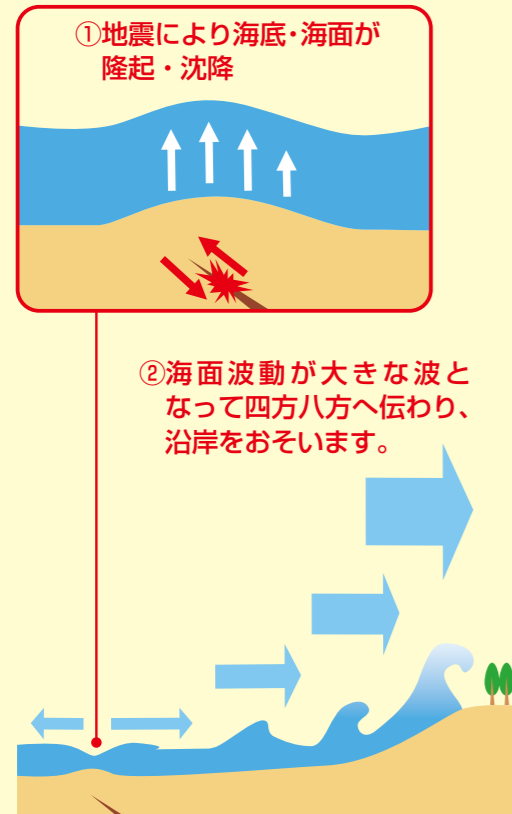
津波注意
(危険地域)

地震が起きた場合、津波がおそい危険性が高い地域・箇所を表しています。

津波を知る

津波発生の仕組み

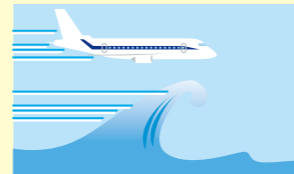
海底の地下の浅い所で大きな地震が起こると、断層の運動により海底の地盤が隆起したり沈降したりします。この海底の変形に伴って海面が変動し、津波の原因となります。



津波の特徴

沖合ではジェット機並み

津波は沖合ではジェット機速度に匹敵し、陸上ではオリンピックの短距離選手並みの速さです。人が走って逃げ切れるものではありません。



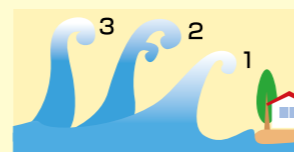
引き潮が無くても来る

地震の起こり方や、震源付近の地形によっては引き潮が起らないこともあります。



2波、3波と繰り返す

津波は繰り返しおそってきます。第2波、3波の方が大きくなる可能性が高いです。



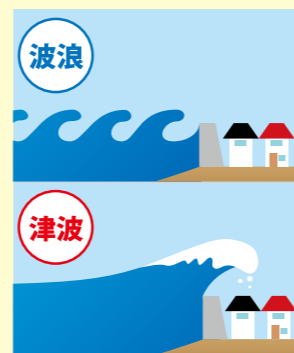
津波の高さは想像以上

津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。



恐るべき津波の破壊力

津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までの全ての海水が巨大な水のかたまりとなって海岸に押し寄せ、その破壊力はすさまじいものとなります。また、引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。

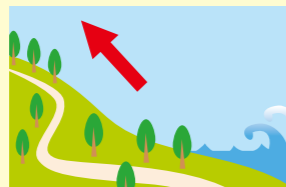


津波が起きたら…

逃げるが一番!

高台へ避難しましょう

波が引かずにすぐに津波がおそってくることもあります。また、繰り返し押し寄せることもあります。



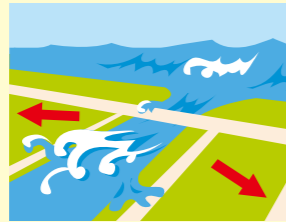
避難に車は使わない

原則として車で避難することはやめましょう。渋滞に巻き込まれ、避難が困難になり、被害を大きくすることもあります。



河川から離れましょう

川をさかのぼる津波は速度が速く、避難の際に川沿いの道や橋を通ることは危険です。



船は沖合へ

沖合では津波を感じません。船に乗っている時はあわてて港に戻らずに、沖合へ向かいましょう。津波の被害を避けることができます。



津波ハザードマップ

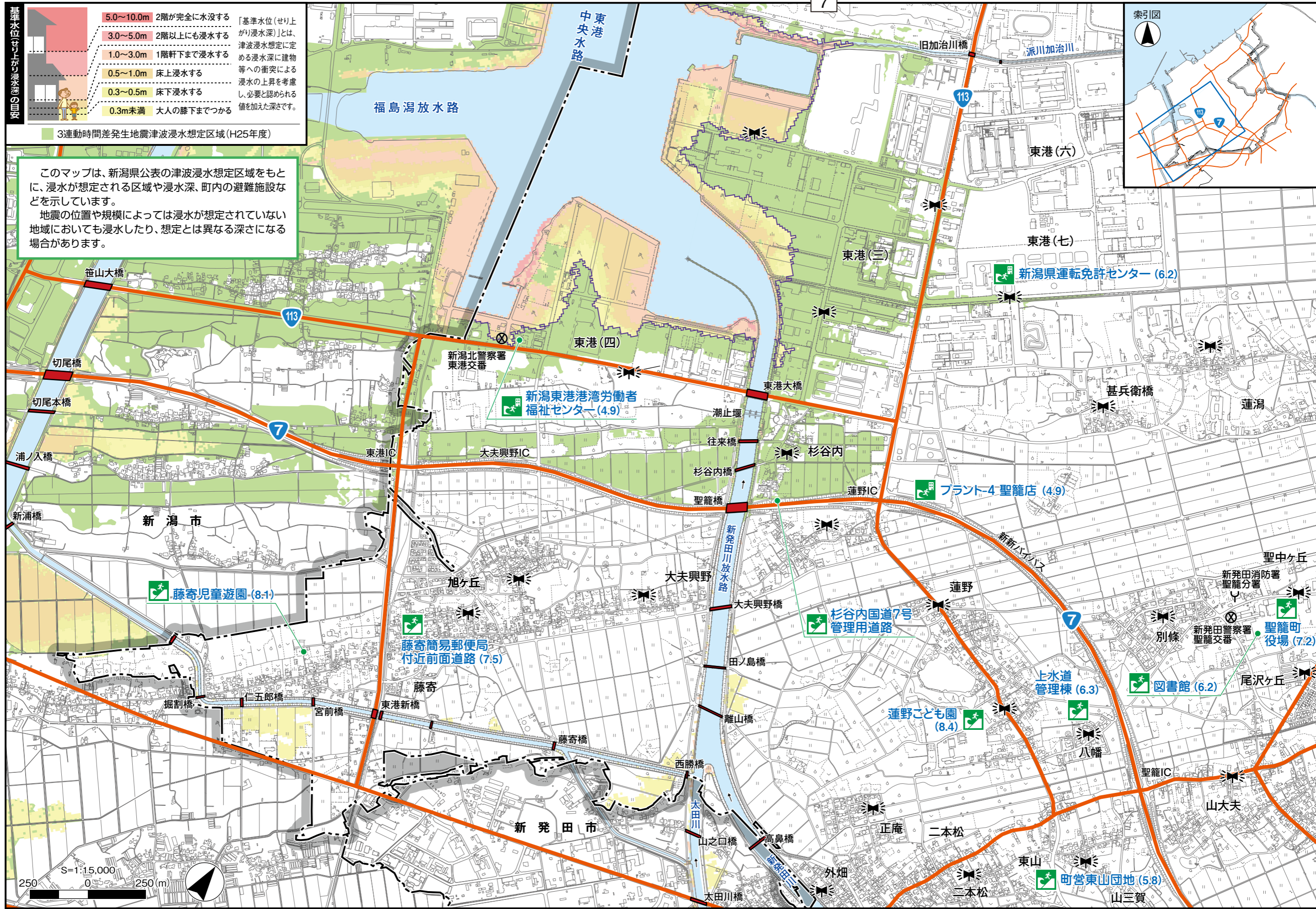
基準水位(せり上がり浸水深)の目安

5.0~10.0m	2階が完全に水没する
3.0~5.0m	2階以上にも浸水する
1.0~3.0m	1階軒下まで浸水する
0.5~1.0m	床上浸水する
0.3~0.5m	床下浸水する
0.3m未満	大人の膝までつかる

「基準水位(せり上がり浸水深)」とは、津波浸水想定に定める浸水深に建物等への衝突による浸水の上昇を考慮し、必要と認められる値を加えた深さです。

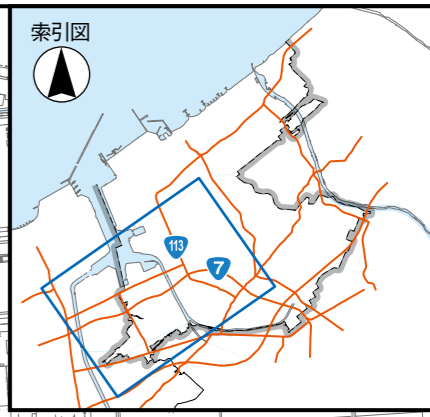
3連動時間差発生地震津波浸水想定区域(H25年度)

このマップは、新潟県公表の津波浸水想定区域をもとに、浸水が想定される区域や浸水深、町内の避難施設などを示しています。
地震の位置や規模によっては浸水が想定されていない地域においても浸水したり、想定とは異なる深さになる場合があります。



凡例

- 津波避難ビル (Blue building icon)
- 津波避難場所 (Green building icon)
- ※施設名の()内の表示は海拔(m)
- 津波災害警戒区域 (Red dashed line)
- 防災行政無線 (Black zigzag line)
- 主要幹線道路 (Orange line)
- 橋 (Red line with bridge symbol)
- 市町界 (Black dashed line)



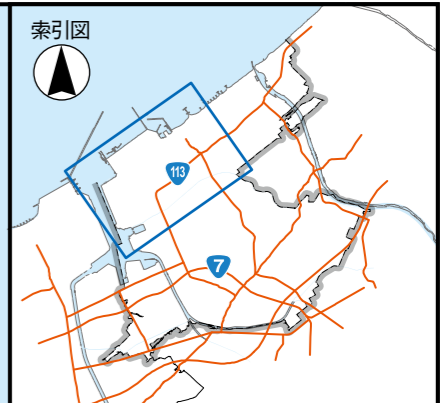
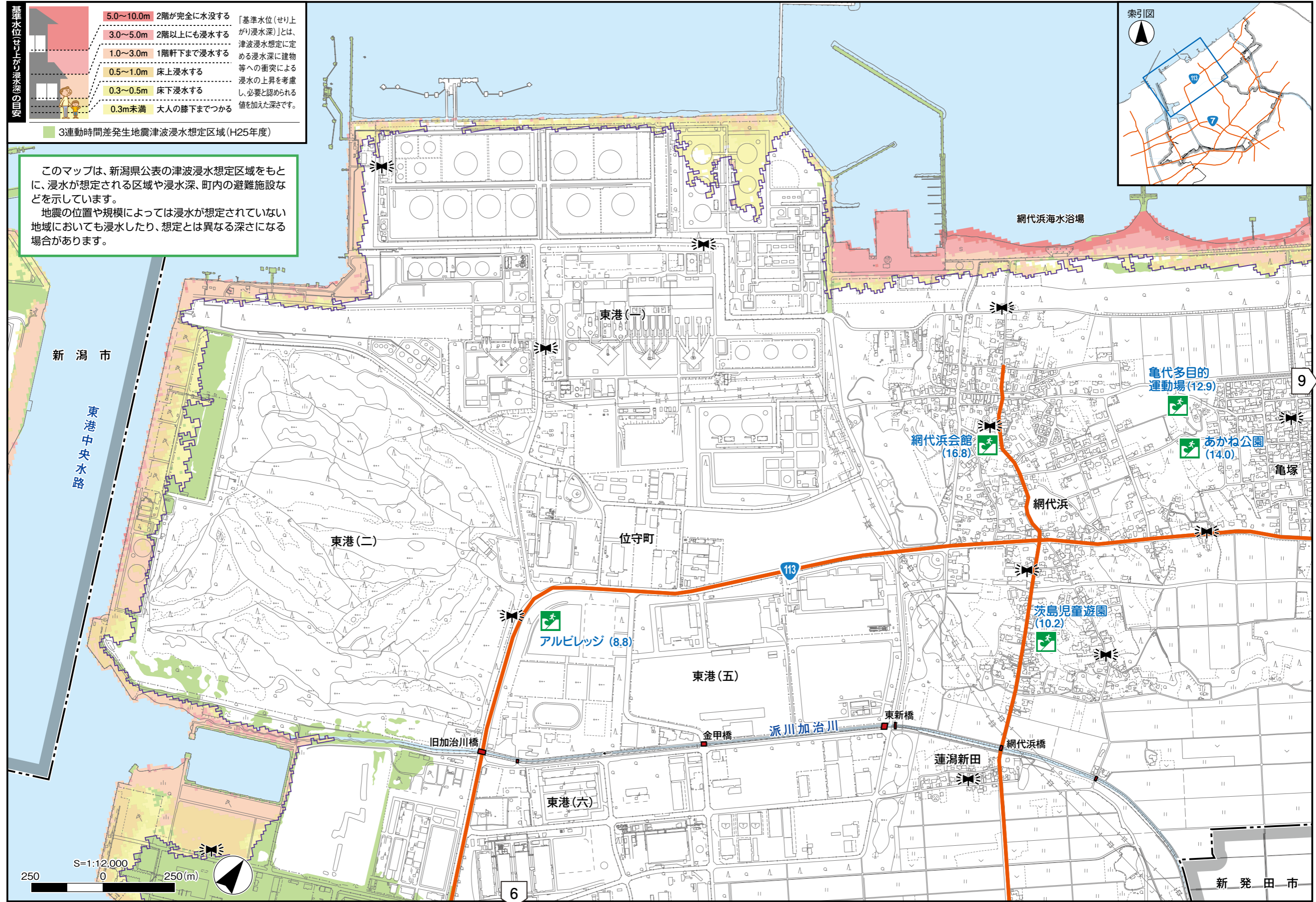
津波ハザードマップ

基準水位(せり上がり浸水深)の目安

5.0~10.0m	2階が完全に水没する	「基準水位(せり上がり浸水深)」とは、津波浸水想定に定める浸水深に建物等への衝突による浸水の上昇を考慮し、必要と認められる値を加えた深さです。
3.0~5.0m	2階以上にも浸水する	
1.0~3.0m	1階軒下まで浸水する	
0.5~1.0m	床上浸水する	
0.3~0.5m	床下浸水する	
0.3m未満	大人の膝下までつかる	

3連動時間差発生地震津波浸水想定区域(H25年度)

このマップは、新潟県公表の津波浸水想定区域をもとに、浸水が想定される区域や浸水深、町内の避難施設などを示しています。
地震の位置や規模によっては浸水が想定されていない地域においても浸水したり、想定とは異なる深さになる場合があります。

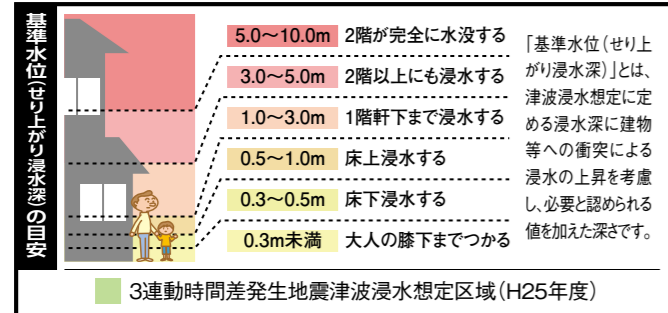


凡例

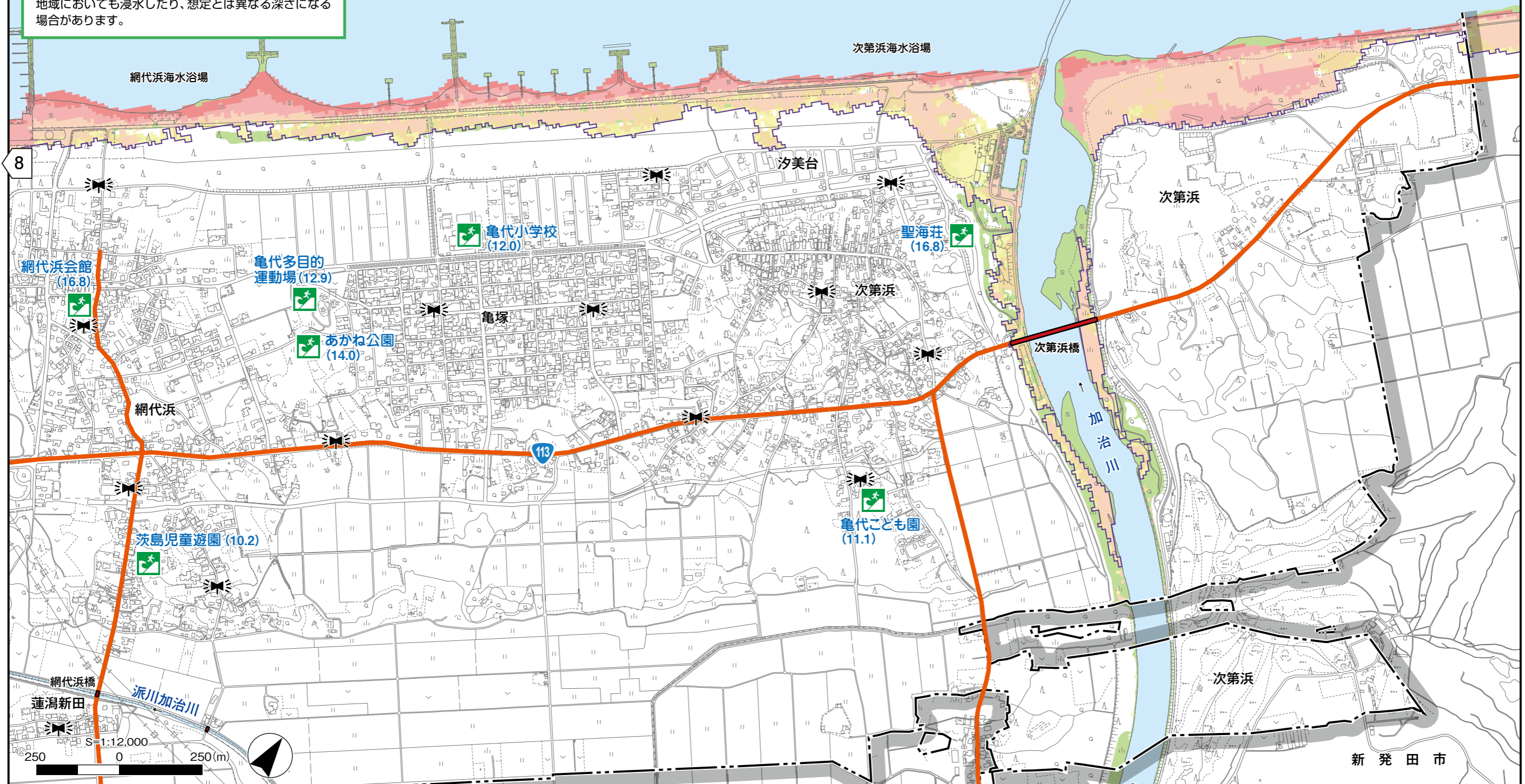
- 津波避難ビル
- 津波避難場所 ※施設名の()内の表示は海拔(m)
- 防災行政無線
- 主要幹線道路
- 橋
- 市町界
- 津波災害警戒区域

津波ハザードマップ

凡例
 津波避難ビル 津波避難場所 ※施設名の()内の表示は海拔(m) 津波災害警戒区域
 防災行政無線 主要幹線道路 橋 市町界



このマップは、新潟県公表の津波浸水想定区域をもとに、浸水が想定される区域や浸水深、町内の避難施設などを示しています。
 地震の位置や規模によっては浸水が想定されていない地域においても浸水したり、想定とは異なる深さになる場合があります。



津波の想定地震について

このマップに示す津波浸水想定は、国が公表した新たな知見に基づく津波断層モデルによる津波を想定したものです。断層モデルごとにシミュレーション調査を実施し、浸水の深さと範囲を重ね合わせ(F30,F34,F35,F38,長岡平野西縁断層帯地震:下図参照)、最大となる浸水深を表示しています。

新潟県に影響が大きい断層と想定地震規模(M)

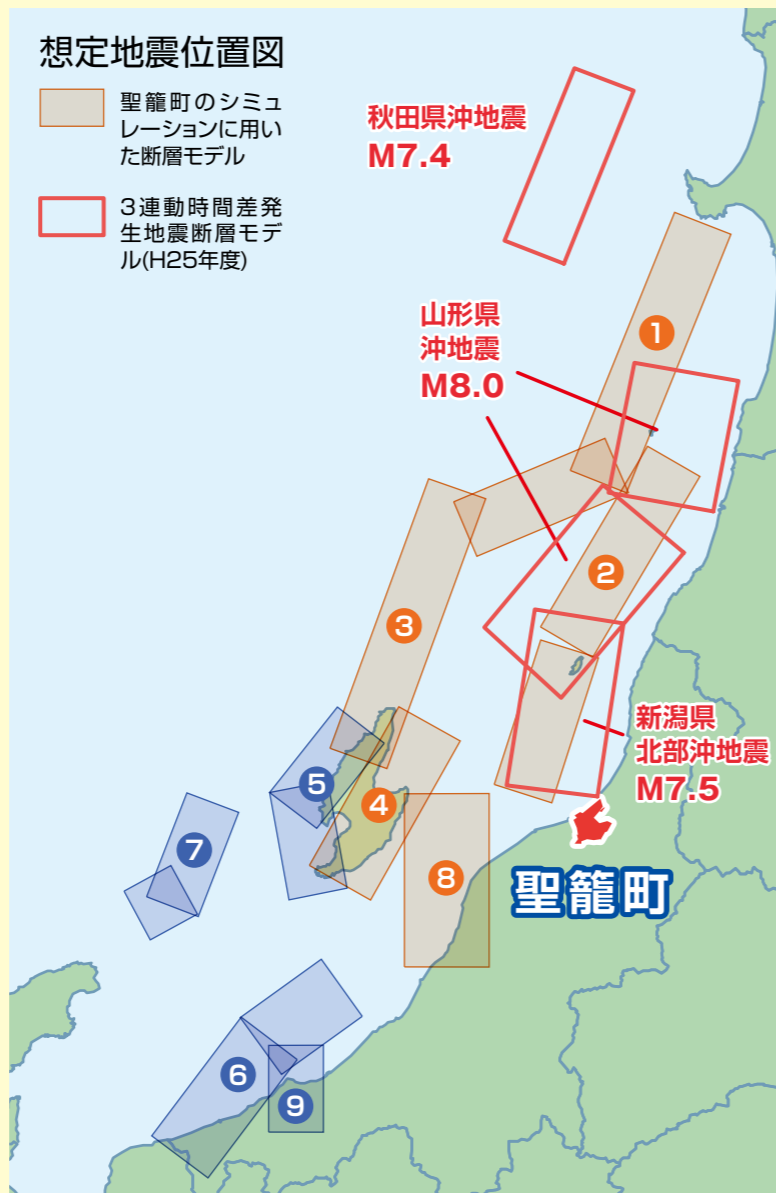
- | | |
|---------------------|---------------------------|
| ① F30 秋田・山形沖 (M7.8) | ⑤ F39 佐渡西 (M7.4) |
| ② F34 県北・山形沖 (M7.7) | ⑥ F41 上越・糸魚川沖 (M7.6) |
| ③ F35 佐渡北 (M7.6) | ⑦ F42 佐渡西方・能登半島北東沖 (M7.3) |
| ④ F38 越後海峡 (M7.5) | |

追加断層モデル
(県独自の陸地から海域に伸びる断層)

- ⑧ 長岡平野西縁断層帯 (M7.6)
 - ⑨ 高田平野西縁断層帯 (M7.1)
- 「津波浸水想定」は、新潟県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される地震が悪条件下(構造物の破壊等)において発生した場合を想定しています。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 加治川、新発田川放水路、派川加治川、福島潟放水路における河川遡上の影響も考慮されています。
- 聖籠町で想定される最大津波水位は、F34(県北・山形沖)地震で7.1m(海岸線から沖合約30m)、影響開始時間(初期水位から20cm以上水位上昇・低下した時の最短時間)は5~10分以内と予測されています。

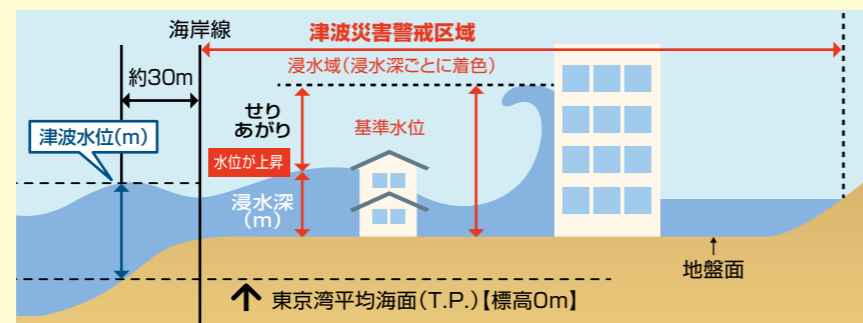
想定地震位置図

- 聖籠町のシミュレーションに用いた断層モデル
- 3連動時間差発生地震断層モデル(H25年度)



基準水位(せり上がり浸水深)

津波浸水想定に定める浸水深に建物等への衝突による浸水の上昇(せり上がり)を考慮した水位であり、地盤面からの高さ(深さ:m)で示されます。ハザードマップに表記の津波の浸水深は、この「基準水位(せり上がり浸水深)」の値を採用しています。



津波災害警戒区域

- 津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域を言います。
- 聖籠町においては、津波浸水想定(平成29年11月新潟県公表)の浸水域が津波災害警戒区域に指定されましたが、浸水域に囲まれていても浸水しない土地は、警戒区域に含まれません。

標高図

この地図は、聖籠町の標高を色別に表示しています。自宅や学校、勤務先周辺の標高をあらかじめ把握し、災害時の避難に役立てて下さい。

